



BUSINESS REPORT

第72期 中間報告書

平成27年10月1日 - 平成28年3月31日



粉とともに100年 粉体技術で世界を変える

ホソカワミクロン株式会社



※100周年ロゴに用いたコーポレートカラー(白、赤、濃紺)には、大地(白)に根を下ろし、太陽(赤)そして無限の宇宙(濃紺)に向かって発展していこうという願いが込められています。

トップメッセージ

株主のみなさまには、日ごろから当社グループの事業運営に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年4月、当社は創業100周年を迎えることができました。1916(大正5)年、大阪市西区に創業した小さな鉄工所が、微粉碎機の発明をきっかけに粉体技術一筋に歩み続け、M&Aや事業の再編を繰り返し、世界に事業を展開する粉体技術の総合企業へと成長を遂げました。これも株主の方々をはじめとするステークホルダーのみなさまの長年にわたるご支援の賜物と深く感謝いたします。

創業100周年を迎えるにあたって掲げた「粉とともに100年、粉体技術で世界を変える」のスローガンを肝に銘じ、100年の歴史や現在の立場に胡坐をかくのではなく、創業の精神に立ち返って挑戦し続ける気概を持ち、「粉体技術を通して社会に貢献する企業」を実践して参ります。創業100周年を起点とし、社員一同、新たな歴史を刻む真のトップ企業へと邁進する所存です。

なお、株主還元につきましては、安定的な利益配分による一株当たり配当金額の増加に努めるなど総配分性向の向上を図る方針に基づき、一株当たり中間配当金は、当初予定通り、前年中間期と同額の7.5円とさせていただきます。また、これまでご支援いただきました株主のみなさまのご厚誼にお応えするため、今期末に2.5円の創業100周年記念配当を実施し、10.0円の配当を予定いたします。

株主のみなさまには、引き続きご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年 6月

代表取締役社長 社長執行役員 細川 悦男



連結業績 (当期と前期の比較)			
	当期 第72期	前期 第71期	
	中間期	中間期	通 期
売上高	212	211	473
営業利益	13	6	24
経常利益	13	6	26
四半期純利益	9	4	25
資産合計	495	494	507
純資産合計	296	282	303
1株当たり四半期純利益	22.9 円	11.0 円	60.3 円
自己資本比率	59.7 %	57.1 %	59.7 %
1株当たり配当金	7.5 円	7.5 円	15.0 円 (期末7.5円)

粉体技術の開発を通して社会に貢献する

ホソカワミクロン株式会社は、大正5年(1916年)の創業以来、“粉体技術”で世界の産業に貢献することを企業理念として事業を展開してまいりました。

さまざまな粉体技術の分野における優れた製品群を峰々とし、それらを結びつけ、組みあわせるノウハウやエンジニアリングといった周辺技術をすそ野に配した雄大なホソカワの“粉体技術連峰”を形成することにより、常にグローバル・リーディングカンパニーであり続けます。

基本方針

- 技術開発
- 国際化
- 人材集団の形成



事業の概況

●全体の概況

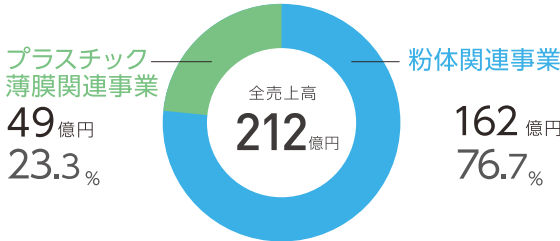
北米を中心にプラスチック薄膜関連事業が好調な推移を続けているものの、粉体関連事業で一部の欧州子会社が振るわず、為替レートが想定よりも円高に振れていることもあって、業績が目減りする状況にあります。しかし、売上総利益率の改善や販管費の削減により、収益性は向上傾向にあります。このような状況下、受注は海外の大型案件等に決定遅延が見られ、前年比16億7千万円減(6.4%減)の242億9千万円となりました。

売上は今期受注の決定遅延の影響から積み上がりの鈍さは見られたものの、期初受注残からの順調な売り上げに支えられ、前年比8千万円増(0.4%増)の212億2千万円となりました。

利益面においては、売上総利益率が前年比1.2%上昇したことや増収、販管費の減少等の効果により、営業利益は前年比7億8千万円増(130.2%増)の13億9千万円、経常利益は前年比6億9千万円増(103.3%増)の13億7千万円となりました。また、四半期純利益は、前年比4億9千万円増(108.5%増)の9億5千万円となりました。

なお、前年と比較したドルに対する円安とユーロに対する円高による為替換算上の影響額は、売上で約7.8億円減、営業利益で約1千万円減と試算しております。

ただし、前期末に売却した製菓関連事業分を前年実績から除いた比較では、受注は前年比1.8%の減少、売上は前年比6.5%の増加、営業利益は製菓関連事業が赤字であったため、前年比89.5%の増加となります。



粉体関連事業

前年同期比 売上高 7.4%増
営業利益 60.3%増



さまざまな産業分野で用いられる粉状の原料や製品について、砕く、大きさ別に分ける、混ぜる、乾かすなどの加工を行う粉体処理装置および日本市場における環境保全や製品捕集に用いる集じん装置、クリーンルームの開発・製造・販売とシステムエンジニアリングを行う事業です。また、ナノ複合粒子技術を応用した新素材や化粧品などの開発・製造・販売・受託研究を行うマテリアル事業、材料の加工を請け負う受託加工事業も含まれます。

業績のポイント

新興国の成長力鈍化や円高などを一因とする景況の足踏み感から、国内外で顧客の設備投資に決定遅延が見られました。特に欧州子会社にこの傾向が強く表れ、受注が伸び悩みました。一方、売上は期初受注残が順調に売り上がったことで前年を上回る進捗を示しました。また、収益面では前年を上回る売上と売上総利益率の改善により、営業利益は前年比60%強増加しました。用途別では、二次電池材料及磁性材料など自動車関連市場で動きが見られました。また、地域的には旧東欧諸国向けは減少しましたが、中国、韓国、タイなどアジア諸国向けが若干回復を見せました。

プラスチック薄膜関連事業

前年同期比 売上高 3.9%増
営業利益 42.3%増

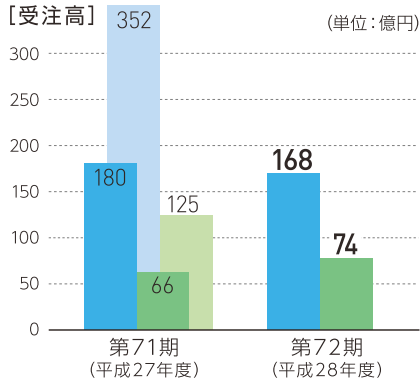


食品包装や電子機器類保護に用いる単層および多層構造の高機能フィルム製造装置の開発・製造・販売とシステムエンジニアリングを行う事業です。当事業を展開するホソカワアルピネA.G.(ドイツ)は、インフレーションフィルム製造装置のブランドとして、世界で広く認知されています。

業績のポイント

米国向けを中心に大型案件の受注が継続したことに加え、ポーランドや中国などの新興国向け案件も獲得するなど、前年を11%強上回る受注を上げました。また、期初受注残からの売上も順調に進み、売上と営業利益も受注同様に前年を上回る成績となりました。好調な受注の継続によって受注残高は73億円に達し、安定した事業活動を支えています。世界各国で開催される主要展示会に積極的に出展し、潜在顧客の開拓にも注力しています。

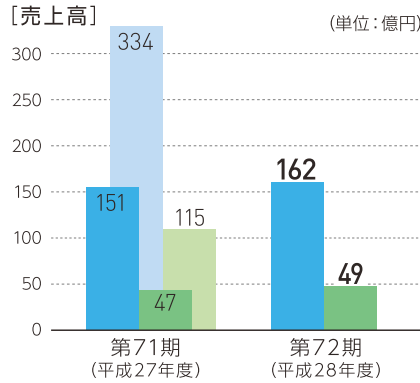
粉体関連事業



〔受注高解説〕

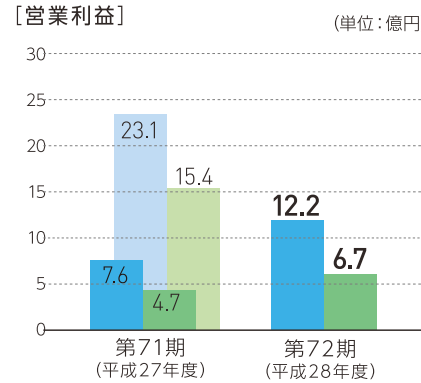
粉体関連事業では、世界的な景況の不透明感から、顧客の設備投資の決定が遅延する傾向が続いており、入念な営業活動を展開していますが、案件の進捗が読みにくい状況にあります。二次電池や磁性材料などの特徴的な用途での引合い増によって、昨年度大きく落ち込んだアジア諸国向けや国内向けで若干回復傾向が見られます。一方、プラスチック薄膜関連事業は、米国向けを中心に、原油安による原料安等の追い風に乘った受注が継続しています。

プラスチック薄膜関連事業



〔売上高解説〕

粉体関連事業、プラスチック薄膜関連事業共に期初受注残からの売上が順調に推移しており、共に増収となりました。単純な前年比では、0.4%の増収ですが、前年売上から製菓事業分を除いて同等事業での比較とし、さらに為替の影響による目減り分も考慮すると、実質的には10.4%の増収と試算できます。



〔営業利益解説〕

目立った低採算案件がなく、また、受注残案件の計画的な生産がスムーズに進んだことで、売上総利益率が2事業共に改善しました。また、前年度末に実施した製菓関連事業の売却等の要因も含め、販管費が抑えられたことで、営業利益率は前年比で粉体関連事業では2.5%上昇して7.6%、プラスチック薄膜関連事業では3.7%上昇して13.7%となりました。特に、日本単独では販管費が前年比6千万円強減少したことも貢献し、営業利益率が6.8%上昇して11.4%と大きく改善しました。

展示会報告

CHINAPLAS 2016(上海、中国)

1983年に北京で初開催され、今年で第30回を数えるCHINAPLAS展(4月25日(月)～28日(木))は、中国で唯一のプラスチック・ゴム産業に関する国際展示会です。当初は、小規模な展示会でしたが、今では上海と広州の交互開催となり、出展企業は3,200社を超え、世界中から14万人ものバイヤーが訪れる当業界で2番目の規模を誇る国際展示会になりました。当社グループは、ホソカワアルピネA.G.(ドイツ)のプラスチック薄膜部門から、「フィルム押出し装置」と「リサイクル・造粒装置」の2部門が出展し、中国の他、インド、イラン、サウジアラビア、韓国、台湾、東南アジアから有望顧客の来場を得ました。



POWTECH 2016(ニュールンベルク、ドイツ)

世界最大級の工業展『POWTECH 2016』が4月19日(火)～21日(木)の3日間にわたり、ドイツ・ニュールンベルクで開催されました。891社の粉体機器メーカーが一同に会し、効率的な生産を実現する革新的な技術が紹介されました。世界31ヵ国から約1万6千人(前年度比7%増)の来場者があり、出展企業の30%以上がドイツ国外からでした。当社グループは、ホソカワアルピネA.G.(ドイツ)、ホソカワミクロンB.V.(オランダ)、ホソカワミクロンLtd.(イギリス)の3社が協力し、出展者中最も広いスペースに24機種を展示し、伝統的なブランド力をアピールしました。グループ3社それぞれが医薬関連機器や技術をそろって展示したのが特徴的でした。また、今回のPOWTECH会期中には、3年毎に開催される国際微粒子テクノロジー会議「PARTEC」があり、約500名の研究者らによって微粒子処理の新しいトレンドについて議論が交わされました。当社ブースでは、微粒子の特性や混合技術に関する意見交換の場を提供しました。



当社の歴史は、1916(大正5)年、大阪市西区に立ち上げた小さな鉄工所から始まりました。その後、創業者 細川永一が1930(昭和5)年に発明した画期的な微粉碎機「ミクロンミル」を礎に独自の粉体技術の道を歩んできました。この発明は後に海外の優れた粉体処理装置とのクロスライセンス契約を果たし、更には海外展開を加速するM&Aへの道を拓くことになりました。当社の事業展開のあゆみは、ミクロンミルから伸びた一筋の蔓が、やがてその先に多くの瓢をつけていくように例えることができます。

1960(昭和35)年に初めて海外に拠点を構えて世界展開を本格化し、1980年代にM&Aで業容を拡大することで、独自の企業進化を遂げました。1970年代のオイルショックや1990年台初頭のバブル経済の崩壊、2008年のリーマンショックなど、厳しい環境にも曝され、事業の再編や人員削減などの痛みを伴う改革を余儀なくされたこともありましたが、これらを教訓に、近年は国内外拠点の整備や組織改組による事業基盤の強化と将来の

技術開発や企業成長を支える人材の育成に努めてきました。このような中、2000年から新たに取り組んだマテリアル事業も収益事業に成長するなど、新しい体制や事業の芽も育ってきました。世界の産業の発展を縁の下から支える粉体技術を担う企業として、産業界のニーズに迅速に応え、グループ運営を最適化することで収益力と競争力のある企業体へと進化を続けていく方針です。

2016年4月21日(木)、帝国ホテル大阪で「創業100周年 感謝の集い」を開催しました。取引先やOB・OG社員など861名の方々がご来訪くださいました。開式の挨拶に立った社長 細川は、お集まり頂いたみなさまへ感謝の意を表すると共に、当社グループはこれからも雄大な粉体技術連峰の形成を目指し、信頼される企業グループとして世界の産業の発展に貢献できるよう励んでいくと抱負を述べました。その後、来賓を代表して近畿経済産業局 関総一郎局長からご祝辞を賜り、日本粉体工業技術協会 増田弘昭

会長のご発声による乾杯で祝宴が始まりました。弦楽四重奏の生演奏が流れ、和やかな雰囲気に包まれたメイン会場には、海外グループ会社7カ国の代表料理のコーナーも並びました。また、メイン会場隣りのデザートルームに設けた当社100年の歩みを写真や機械模型で振り返る展示コーナーでは、旧知の方々と思い出話で盛り上がりました。



化粧品と育毛剤をリニューアル

今年4月、創業100周年のタイミングで、スキンケア化粧品3種と男性用・女性用の育毛剤、シャンプー・コンディショナーをリニューアル発売しました。当社製品の特徴は、DDS(薬物搬送システム)用途で用いる生体適合性・分解性の高分子PLGA(乳酸/グリコール酸共重合体)のナノ粒子に有効成分を封じ込め、肌の奥まで届ける仕組みにあります。このナノ複合粒子は肌の水分で徐々に分解し、その際に内包した有効成分をゆっくりと長時間にわたって放出し続ける特性を持つため、効果が長続きするのが特徴です。今回発売した新製品は、新たな有効成分を追加配合して機能を強化しました。また、PLGAの加水分解を制御する技術を確認したことで、美容液やクリーム、育毛剤、シャンプー、コンディショナー等、全ての製品が機能性PLGAナノ粒子を直接配合した一剤化製品となり、より使いやすく生まれ変わりました。

ホソカワミクロンは 創業100周年

粉体技術の結晶「PLGAナノカプセル」の機能性をさらに進化させ、リニューアルした「ナノクリスフェア」と「ナノインパクト」シリーズ。1916年の創業から100年、化粧品分野に新たな息吹を吹き込みます。

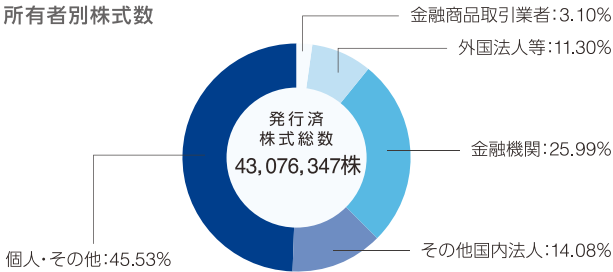


株式の状況と会社概要

〈株式の状況〉 ※平成28年 3月31日現在

発行可能株式総数 99,347,000株
発行済株式の総数 43,076,347株
株主数 6,353名

所有者別株式数



(注) 自己株式(1,215千株)は上記の個人・その他に含めています。

株主メモ

事業年度	10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
基準日	定時株主総会 毎年9月30日 期末配当 毎年9月30日 中間配当 毎年3月31日 そのほか必要なときは、あらかじめ公告して定めた日
公告の方法	電子公告(当社ホームページに掲載いたします) http://www.hosokawamicro.co.jp/
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 ※平成28年6月16日より、特別口座の口座管理 機関は、三菱UFJ信託銀行株式会社から三井住 友信託銀行株式会社に変更となります。
株主名簿管理人 事務取扱場所 (郵便物送付先)	大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
(インターネットホームページURL)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

〈大株主〉 ※平成28年 3月31日現在

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社日清製粉グループ本社	2,500	5.97
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,027	4.84
三井住友信託銀行株式会社	1,500	3.58
株式会社三井住友銀行	1,410	3.37
東豊産業	1,266	3.03
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,073	2.56
細川悦男	1,039	2.48
日清エンジニアリング株式会社	1,031	2.46
株式会社京都銀行	1,000	2.39
ホソカワミクロン取引先持株会	938	2.24

(注1) 上記のほか当社保有の自己株式1,215千株があります。

(注2) 株式比率は発行済株式総数から自己株式(1,215千株)を控除して算出しています。

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別
口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
※配当金は支払開始の日から満3年(除斥期間)を経過しますと当社定款の
定めにより、お支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。

配当金計算書について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措
置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、
その添付資料としてご使用いただくことができます。
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては
は、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の
添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。
なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても配当金
のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。
確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

「コーポレートガバナンスに関する報告書」を当社ホームページ内の
「投資家の皆様へ」のページに掲載しております。

ホソカワミクロン 株式会社

本社：〒573-1132 大阪府枚方市招提田近1丁目9番地
TEL：072-855-2226 FAX：072-855-5197

URL：www.hosokawamicro.co.jp 証券コード：6277
資本金：144億96百万円 創業：大正5年4月18日(1916年)
設立：昭和24年8月13日(1949年) 従業員数：354名(単体)／1,451名(連結)
商号：ホソカワミクロン株式会社 英文商号：HOSOKAWA MICRON CORPORATION

ホソカワミクロン化粧品のご購入は
インターネットまたはフリーダイヤルをご利用ください

☎ 0120-191-890

受付時間
9:00-21:00

ホソカワミクロン化粧品

検索